

# 豊かな自然を調査

## 弘大がバイオブリッツ

世界遺産登録30年  
恵みの山  
白神

弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター(センター長・中村剛之教授)は24日、市民参加型の生物多様性調査「白神バイオブリッツ」を鯉ヶ沢沢町黒森地区



見つけたコケをルーパーで観察する参加者(右)

の白神の森遊山道で開催した。親子ら一般市民と専門家が一緒に、決められた地域の生物多様性を24時間の間にどれだけ調べられるかに挑戦。イベントで、スタッフを含め総勢100人が、植物や昆虫、キノコ、脊椎動物など分野ごとに探検してリストを作り、白神の自然の豊かさに触れた。イベントは25日午前まで行われる。(石田紅子)

## 一般の親子や学生、専門家など挑戦 新種も?盛り上がる



採集した昆虫の名前を特定し、標本にする専門家ら

バイオブリッツは一般市民と専門家が一緒に活動し、専門家の採集などのやり方を見たり学んだりできる点が特徴。海外では欧米を中心に20カ国以上で行われているという。今年12月に白神山地区が世界遺産登録30周年を迎えることから、一般市民にも白神の生物多様性に関心を喚起し、東北地方では初開催となった。

遠くは福岡県、奈良県など県内外の自然愛好家ら55人と県外各地から各分野の専門家が参加したほか、津軽植物の会、白神キノコの会、津軽昆虫同好会、大学院生、学生ボランティアらが協力。分野ごとのグループをさらに分類ごとに分けて採集に取り組んだ。植物グループのコケ班は木肌が付いたコケを取ってルーパーで観察。昆虫グループの土壌動物班は木の根元に群がるアリなどを集めた。採集した生物は各グループのブースに集められ、専門家や学生らが図鑑と見比べて名前を特定し、一覧に加えていった。特定する中で「初めて実物を見た」「見つけた中では北限だ」と、愛好家ならではの視点で盛り上がりがあった。

東京都杉並区の松永想君(11)はアリを飼育しながら研究しているといい、親子で参加。「有名なアリの専門家か来ると聞いて参加した。東京では見られない生き物をたくさん見つけられて勉強になった」と目を輝かせた。初日午後5時現在で425種が確認された。中には新種の可能性がある生物もあるといい、今後、詳しく調査するという。この日は時折雨がこぼれるあいにくの天候だったが、センター長の中村教授は「天候と悪条件の割に良い結果が得られた。皆さん楽しく取り組んでくれて、小学生や大学生にとっては専門家と交流して良い刺激になったと思う」と話した。

上記の画像は、当該ページに限って”陸奥新報”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。